

咳で夜寝られない、風邪を引いた後に咳だけが治らない、話そうとすると咳がでて困るなど、咳が改善せず受診する方が非常に多いです。

鼻や咽頭といった上気道に炎症所見ある方が多いのですが鼻咽腔、喉頭、気管上部まで観察しても所見なく臨床症状から喘息、咳喘息を疑い吸入ステロイドや内服処方する方もいます。

何かいい方法はないかと考え、簡単な検査だけで好酸球性の下気道炎症を判定できる呼気一酸化窒素測定器を導入いたしました。



▲呼気一酸化窒素濃度測定器

呼気一酸化窒素値は、喀痰中の好酸球や気道過敏性と相関しています。

検査での数値が高い場合は、気管支喘息や咳喘息といった病気の可能性あります。

長引く咳で内服治療などでも改善しない場合は、呼気一酸化窒素値を測定し、気道炎症の有無を確認して治療選択することをお勧めします。

呼気一酸化窒素値は

非アレルギー＜ダニ感作健常児＜アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎＜未治療喘息
のような順番で値が高くなります。

必ずしも呼気一酸化窒素値が高いから喘息というわけではなくあくまでも気道アレルギーがありステロイド薬に反応する可能性が高いということです。

喘息が疑わしければ近隣の呼吸器内科専門の先生や小児科の先生と協力しながら治療にあたりたいと考えております。

